# 先駆者の情熱

## ——社会主義運動史の中から——

日露戦争たけなわな頃、社会主義の〃伝道〃に従事していた荒畑寒村の当時を物語る一コマである

× ×

地方に社会主義思想を伝播すべく、黒の詰襟洋服に脚絆草鞋といういでたちで、両側に社会主義書類伝道行商、東京都麹町区有楽町平民社と白く書き抜き、上には洋傘一本くくりつけた赤塗りの箱車をひいて、同志に見送られて関東東北へと旅にのぼった。車には、「百年後の新社会」「富の圧制」「土地国有論」木下尚江の「火の柱」などが積み込まれていた。その意気や壮すべし！

「一到る処で、田畑に働いている農夫を見ては社会主義を説いた彼等はしばらく黙って聞いているが、しかし結局はい入合せたように〃そうなると結構ですが、なかなかそうは参りません〃というのである。こっちはジレったくてたまらずなおも熱心に説くと、ついには恐れをなしたか、半気違いと思ったか、みんな遠くに散らばってしまった。私は口惜し泣きに泣きながら、悄然として立ち去る……」

こゝに名利栄達などおよそ眼中にかず、社会主義こそ世のすべての罪悪と悲惨を救うものだという素朴ではあるが、ひたむきな当時の若き〃社会主義者〃の情熱と信念をみてとることができる。この壮途も、日と共に烈しさを加えていった警察の干渉と、社会主義文書販売禁止状の先廻りとで、遂に中道で引返すのやむなきにいたるのだが、それでもこの三十二日間の旅で、書籍百九十冊を売上げている。

× ×

この社会主義運動の先覚者のさかんなる意気と情熱をおもうとき言論、出版、集会、結社の自由が一応公認となった戦後、実に〃貴重な〃この権利を吾々は充分行使しているだろうか、今一度反省してみたいのである。

# 日露戦時下の寄席

反戦論を掲げて戦っていた週間「平民新聞」十八号（明治三七・三・一三）に「戦時の寄席」という題のもと、白熊生の名で次の文が載っている。当時の主戦論の提灯持ちをつとめている講釈師の幼稚なドンキホーテ振りと民衆のお目出度さがうかゞわれて面白い。

× ×

「寄席も近頃は新聞・雑誌のように武装して日露戦争談で客をひいていると云うことであるから、どんなことしやべっているかと思い一夜ある友人と共に銀座の寄席へ行き、こんな話を聞いて帰った。（以下は講釈師自身がツアーの宣戦詔勅を解説していくだりらしい。言葉は多少改めて引用する）

〃昨晩は日本天皇陛下の御勅語を拝読するので羽織を着てやりましたが、今晩は露国の宣戦詔勅を読むのだから羽織をヌイで（この時大カツサイ）やります。遺憾なく批評します。……「朕はこの決意をなすに当り深く上帝の救護を祈り……」日本では神様までが陛下の御家来云々……しかるに（と大いに力を入れて）ロシアでは天皇の上にもう一つキリストという上帝がありそれに祈ったりなんかするのです。（大カツサイ）「朕の臣民がその祖国を防護する為、皆ひとしく起って朕の命におもむくを疑わず……」日本ではペストの時五銭で買上げたネズミがチャント兵卒の防寒頭巾となりネズミまでが忠義のために死んでおりまするが、ロシアでは（と云う時油汗をタラタラと額よりたらしながら）〃疑わず〃と云う以上はナカナカ疑うような臣民もあるのだ。ナント気の毒な国ではないか……（大拍手、大カツサイ）

× ×

# 労働組合で設立し、運営している診療所

労区地

昭和二十八年六月前後未曾有の大水害が筑後川流域を襲ったとき、労働組合をはじめ農民、市民、学生、青年、婦人その他全県下の民主団体及び政党など、五十一団体が集って、福岡県民主団体水害復興委員会（略称福岡県民水対）を組織し、被災地の救援の活動を行いました。救援はカンパ活動、救援隊の派遣、救援物資の輸送、医療班の派遣、相談班、慰問班の派遣など、悪条件の中で多方面にわたって行って来ましたがその中でこの大水害は国際的な同情を呼びおこし、中国から約一千八百万円その他世界労連、国際自由労連などから六百数十万円などの尊い見舞金が送られて来ました。福岡県には、約四五〇万円が配分になりましたので、国内から寄せられた見舞金と合せて、約六百万円の金を一部を活動資金に、大部分は永久に残る事業施設をつくろうということになりました。事業施設についていろいろと討議が重ねられた結果、水害地の救援活動の中で一番喜ばれ感謝されたのは、医療班活動であった。この尊い経験の成果を生かし、今後いかなる災害や非常のときでも、直ちにどこへでも出動できる医療班を整備しておくこと、又平常は一般県民をはじめ、中小企業従業員、失業者零細市民など、比較的医療に恵まれない人々の相談相手となって、医療をもって社会福祉に貢献しようということで、県下に四カ所の診療所がつくられた。

注　八幡市緑町診療所
　　小倉市平和診療所
　　久留米市白鳥診療所
　　福岡市博多診療所

開設後四診療所とも比較的貧困者の多い地域に無料診療を行い特に直方市にある直方塾網にはじまった無料医療班の活動は全国の注目を集めました。

中小炭鉱の医療救済運動にはその支柱となって活動して来ました。医療班の編成薬品の提供など、長期間にわたる医療救済に果した役割は非常に大きかったと確信しています。

そのような活動の経過の中で、本年一月民水対より発展し財団法人の設立を行い名称も福岡県勤労者医療団と改め、実質共に労働組合の運営に移行しました。

福岡市の博多診療所は福岡地区労働組合がすべての物件を各参加組合の出資により買収し、名称も福岡地区労診療所とし現在地（福岡市須崎裏町）に移転し、ますます、その本旨を完うするべく努力しています。

福岡地区労診療所の昭和三十一年度事業計画

福岡地区労診療所の三十一年度事業計画を述べてみます。

一、医療保護の事業

1、一般の診療は、一点単価十一円五十銭で行って行くが、特にひどい生活困窮者には、各地区民生委員、町世話人及び福岡市福祉事務所と協力し、生活保護法の適用を受けるよう指導する

2、生活保護の適用を受けない生活困窮者には、その生計困窮の度合に応じて前記各機関と協力して減額診療を行う。

3、それでもなお支払不能の状態にある者には、無料施療を行う

4、結核、性病各予防の精神に基づいてそれに協力し、同法の適用をうけるよう指導し保護する

5、優生保護の徹底を図り、母子保護に努める。

二、公衆衛生思想の普及

1、機関紙による宣伝啓蒙

座談会の開催、健康相談の事業

三、社会保障制度に関する調査研究及び啓蒙宣伝

四、災害医療班の整備派遣

五、診療事業の経営事業の拡張

1、病棟の増築延四十五坪収容定員十三名

2、現建物の改造、医療器材、什器の購入

以上のように昭和三十年度は法人設立の整備期間であり十分な事業活動ができなかったが、本年度に本格的に事業遂行を期し、その基礎を樹立する方針です。

地区労診療所開所いらい早くも九カ月を経過しましたが、その間利用者は急激に増加し、勤労者、中小企業従業員、失業者、零細市民の方々の感謝と支持を受けています。運営については地区労幹事と出資組合及び医師で構成し、委員長には議長が就任しています。

医療団は各地区四カ所の診療所より理事を選出し運営に参加しています。

目的達成のためには福岡地区労傘下全組合の指導と共に各種民主団体の協力をお願いします。

福岡地区労
宗　事務局長

【講座】

# 資本主義のからくり（5）

奥田八二

前号で、生産物の交換（商品交換）は今までのうちで最も発達した搾取の方法であり、目に見えない搾取の方法だ。といった。生産物を交換することなしに、他人の生産物を横どりしようとすれば、生産者自身をはじめから我ものにする（奴隷制）か、生産者から力づくで生産物を奪う（農奴制・封建制）ほかはない。このような搾取の仕方は一見明らかに搾取の行為や搾取量がわかる。

しかし、生産物の交換になると交換は元来合意の上で行われるし双方に物のやり取りがあるのだから、搾取は行われていても目に見えない。

ところがどうだろう。もし例えば甲がニギリメシ、乙が柿のタネを持っていて、ニギリメシを作るのに三〇分かかり、柿のタネを拾うのに一〇分かかっていて、甲乙それを合意の上で交換するとすれば、乙は三〇分とくになる。甲が三〇分働いているうちに、乙は一〇分働けばよい。乙は甲の労働二〇分を搾取したことになる。

この論法でこの分量をもつと大くし、交換される品物をもつと一般的に考えて、どんな品物にもあてはめてみると、甲は毎日働いても食うだけで精一ぱいということも起り、乙は遂には働かないで二〇分の何倍かの他人の労働の生産物に常に寄生して生活していくことができるであろう。今の例でふつう人が一日にニギリメシ一五食うとすれば、30分×15＝7時間半と10分×15＝2時間半ということになり、乙は二時間半働いて食っていけるが、甲は七時間半働かねば食っていけない。甲は毎日働き乙は三日のうち一日だけ七時間半働けばよいということになる。

右の例のような馬鹿げた交換はあるものか、と反対するひともあろう、しかし、その昔、農民が農具を買ったり、肥料を買ったり、衣服を買ったりするようになったころ—現在でもそうだが——は特にこんな馬鹿げた交換が多かった農民は自分の一〇時間の生産物が何円になるのか知らない。肥料の何円が一〇時間の生産物であるかは知らない。それで例えば自分の一カ月分の労働の生産物である米一俵を町での一〇日分の生産物である鍬一〇丁と同じ値段だとして取引されてもわからないのである例えば米一俵を四千円で売り鍬一〇丁を四千円で買うのであるが、そこに搾取があることに気がつかない。米の相場は町で立つし、鍬の相場も町で立つ。米の値段は農家の庭先で商人がつけるし、鍬の値段も商人の云い値である。もしこの商人が同一人であるとすればこの商人は米を一俵五千円で売る方法を知っているし、鍬の一〇丁を三千円で仕入れる方法を知っている。

だから農民を搾取する方法は、何も農民を奴隷として働かせたり切捨御免で上納米を取上げなくても、商品として米を交換すればよいわけである。

どうすれば農民は米を商品として売りに出すか？、前講では生産物が商品になるには私有財産制度と分業が行われておればよいといった。つまり、ここでは、農民は農奴ではなくて、自由な農民として、土地又は農具を所有し、自分の生産物を自分のものとして自由に処分できる立場にあることが必要である。封建制末期の農奴解放はそのために行われた。それは農民の希望でもあったし、町方の商人の希望でもあった。

殷落農民は自分で農具を作らず町方の職人が作った農具を買う方が、便利で立派な農具を入手できるということになると、農民はこれまでの自給自足のための農具製作を止めて町方から農具を買うようになる。そのためには米を売らねばならぬということになる。農民は自分で食うための米以外に売るための米を作る。職人もだんだん、副業の米作りを止めて農具作りに専念する。こうして米作りと農具作りは他人のための米、他人のための農具の生産労働となってここに分業が行われることになるこうして農産物が商品となり、農民からの搾取が武力や鞭によってではなく、交換によって行われることになる。

今まで農民だけを例にあげたがその他どんな職業でも、生産者が自分の生産物を売り、他人の生産物を買うようになり、しかも市場の事情にうとく、不利な条件で生産し、団結することを知らない限り、この生産者は、他の生産者や仲介商人から搾取されるようになるわけである。不等価交換が封建制をくずしたのだ。

# 『平民新聞』の社會時評

週刊「平民新聞」には「青眼白眼」という、今日の新聞にも設けられている社会短評欄がある。その中から面白いのをいくつか拾ってみると．

× ×

眼中国民なくして、国家あるのみ。国家なくして、軍人あるのみ軍人なくして国旗あるのみ。是れ何国の社会ぞ。

忠君愛国の為に飢うる者あり、死する者あり、之を平民という。忠君愛国のために楽しむ者あり、肥ゆる者あり、これを銀行家という。請負業者という。

軍隊輸送の沿道では、人役に出て万才を唱えるか、それなくば三十銭出させられる。そこで或人曰く「万才の定価三十銭也」

伊藤博文氏、朝鮮に便いす。随行者の姓名中、一個の女名前無きは不思議也。

日蓮宗の一雑誌憮然として曰く「常に日家的を以て他宗に誇れる本宗の従軍顧が却下になった。…本宗の歴史は確かに汚点を印されたのである」末世とは云いながら〃主義者がまだそこらに居なくはないか。何も駐日ソ連代表部にナダレ込んで〃占領したぞ〃など喚く小児的右翼主義者にかぎらずにまさかこんな信者が出ようとは、宗祖日蓮も予期すまい。

（H）

さい玉県の小学生徒が模擬戦争をして、露将に擬した小児が、捕虜となって切腹した勇気は感心というかは知らぬが、実に恐るべき幣風である。教師たる者「局外」にばかり浮かれないで、いま少し気をつけるがよい。

× ×

世を挙げて日露戦争熱に浮かれているとき、独り反戦、平和を唱えていた平民新聞が、又民衆の血眼を嗤い、悠々の批評眼をもってこれに対していた姿がホーフツするではないか。

（H）

# 支局だより

師走の声を聞くとめつきり寒くなった感がしますが、皆様御元気で活躍中のことと思います。福岡の同人は、目下協会五周年記念講演会の準備に大奮です。何とかして成功裡に終えたいと思いますので、皆様の御声援を御願いします

× × ×

協会同人が組織を挙げて講演会準備をしているので、新聞編集部の方もそれに呼応して発行以来、始めての試みである四頁版を組んでみました。何しろ思いついたのが若干遅れたために、充分なものとは云えません。それでも最初の小さなガリ版刷に比べて格段の進歩をとげたものだと、編集子は大いに気をよくしています。今後とも御べんたつのほどを。

× × ×

四頁版を組むにあたっては、福岡市内の各労組から多数原稿をいただいた事を深く感謝しています これを契機に、協会としても出来るだけ各労組の学習運動その他の便宜をお計りしたいと思います。もっともっと密接になりたいとも考えています。各労組の方々もどしどし原稿を投稿して協会にハッパをかけて下さい。

× ×　×

原稿をいただいたことを感謝し今後の御協力をお願いします。

三池炭鉱労働組合
十年史編纂委員会編

「みいけ十年」

予約募集
締切12月20日

三鉱労組の闘争史を七カ月にわたる社会主義協会九州支局関係者との不休の研さんによって、まとめたのが本書である。

理論が実践と結びつかなければならぬということは誰でも理論として知っている。しかし三鉱労組十年の歴史は、これをただ理論としてだけでなく実践として示している。三鉱労組十年史は、この意味では、社会主義政党員や労働組合指導者のためにだけでなく、科学の分野で社会的進歩のために協力しようと心がけている人々にとっても、一つの寄与であろう。

社會主義

責任編集　山川均
　　大内兵衛

第六十三号發賣

時評　自由の問題…高橋正雄

＝五周年記念論文＝

当面の課題……三浦清一
組合運動の経験から…久茂人
社會主義運動の課題…安田善治

最低賃金制のたたかい……入江正治
砂川闘争の一五日間……仲井富
基地をめぐる法律問題……久保田昭夫
激動する中近東と英欧……羽生三七
イギリス労働運動の雪どけ……山川菊栄
日中国交回復について……川崎寛治
社会党の統一と労働戦線の統一…大和与一
農民戦線統一はどうあるべきか……農業問題研究会

読者のひろば
▽書評△年報・日本の政治・経済・労働分析
社会主義をどう見るか

〈定價五〇圓〉

社會主義協會　發行
東京都港区本芝三ノ二〇
振替東京六二三二七番